

いぬはりこ

Special feature

発売から半世紀を超えて。
進化し続ける
Bブロック

let's play Bblock

01. 相模幼稚園
×
ジャクエツ
⇒ 「Bブロック研究所」の
実践

02. 藝大
×
ジャクエツ
⇒ 「あそび」の本質を探る！
藝大生との共同研究
プロジェクト

Interview

英国現代アートの
巨匠
リアム・ギリック。

コラボ企画が実現！

B BLOCK
X
LIAM GILLICK

Column

ブロックあそびを
観察して
見えてきたこと

英国現代アート の巨匠リアム・ギリック。コラボ企画が実現！

英国現代アートの第一人者、リアム・ギリック。2022年、ジャクエツの定番商品・Bブロックの新バージョンプロジェクトへの参加が実現しました。どんな想いをもって、コラボ企画に臨んだのでしょうか？

——今回、Bブロックコラボ企画のオフアをお引き受けいただいた理由は、何でしょうか？

私は子どもの頃、いつもレゴなどブロックのおもちゃで遊んでいました。子どもながらに、野心的な空想の世界を作ることに取り組んだのです。自分の作ったものを他のおもちゃと組み合わせ、世界全体を作りあげることに関心していました。Bブロックの仕事を引き受けた理由は、あそびの力というものを信じているからです。

——ギリックさんの子ども時代について、もう少し教えてください。

私はロンドン近郊のアリスバリーという街で育ちました。子どもの頃は、空想の世界を作ったり、言語を生み出して小さな本を書いたりしました。

友達と一緒にいるのも好きでしたが、学校から帰ってきて寝室に作り上げた空想の世界や街に戻っていくときに、私にとって楽しみな時間でした。

——ギリックさんは、カラフルな印象の作品だけでなく、色数を抑えた作品も創作されていますが、ギリックさんにとって「色」はどのような意味をもちますか？

私は、子どもの頃に抱いた色への熱意を忘れないようにしています。そして作品に、純粋な色を使うようになりました。人間が世界をより良くするために作り出した色が好きなのです。

私が作品を作るときはいつも、「色と形の間に存在し得る様々な関係性」をテーマにしています。その意味では、「色」は私にとって、構築された世界の一部としての意味しか持ちません。世界は「色」だけでは存在し得ないのです。

——今回、ギリックさんによる2つのアートピースからBブロックのニューカラーを採用しました。配色に込められた思いを教えてください。

今回、Bブロックの新色のきっかけとなった作品たちは、「あそび」の過程から生まれています。「高度なあそ

び」と言って良いかもしれませんが、具体的には、作品の一連の型(フォルム)を決めた上で、順序付けられたパターンに見えない組み合わせにたどり着くまで、色で遊んでいくのです。色と形との間には、穏やかな緊張感がなければなりません。私の考えでは、色は活きていなければなりません。色と形との間に緊張感が失われると、色そのものが活きないのです。

——子どもは「あそび」を通じて多くのことを学びます。ギリックさんにとって「あそび」とは？

あそびは、私の作品の核になっています。子どもたちにとってだけではなく、社会的なものとして非常に重要です。ハイレベルな大学教育でも、世界の仕組みを理解するためにゲーム理論

を扱います。あそびはアートになくはならず、創造の喜びと複雑さを生み出す上で極めて重要な活動です。

——子どもに「アートって何？」と尋ねられたら何と答えますか？

アートとは、日々の生活の構造の外側に存在するものです。誰にもコントロールされない、気持ちや感情欲望を表現しようとする「特別」なものです。作品を作るといふことはすなわち、アートとは何かを問うことです。これは非常に人間的な活動なのです。

——幼少期から日常的にアートに触れることで、どのような良い面があるのでしょうか？

子どもたちから創造的な時間を奪ってしまおうと、彼らはのびのびと成長できません。アートは、共感を生むとともに、子ども自身の限界を試すものです。そして世界を見る目を養います。つまり、アートに触れることは、子どもたちが達成感と失敗の両方を受け入れることと同じ意味を持つと思います。

——子どもの想像力、表現力を育てるには、どのような環境が良いと思いますか？

子どもは、安全でなおかつ、刺激的なものに囲まれていたいものです。たとえば床やテーブル、窓枠など、さまざまな場所で遊ぶことが好きです。あそびにはいろいろなレベルを設定すると良いでしょう。そして子供たちには大人の支配から逃れて想像を膨らませられるようなプライベートな空間も、必要だと思います。

——この情報誌の読み手である日本の保育園や幼稚園の先生方に、メッセージをお願いします。

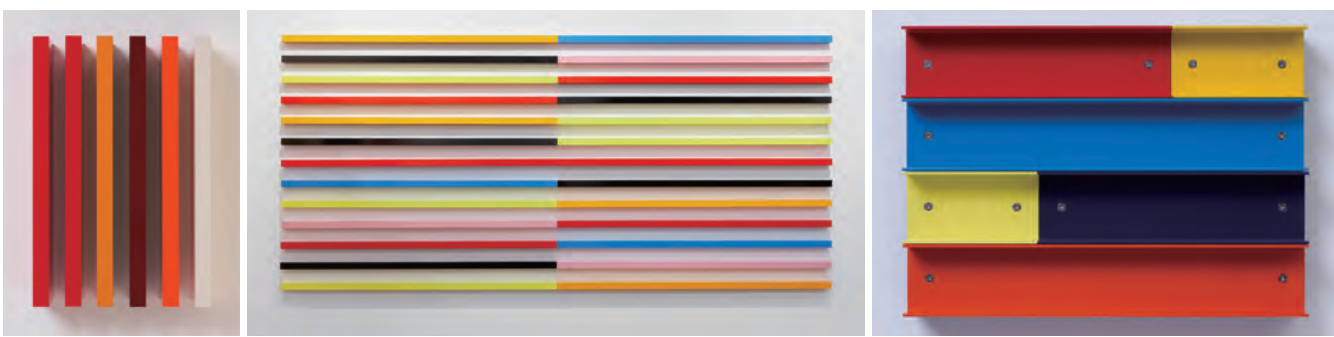
私はいつも、日本の子どもたちの知性と直感に感銘を受けています。あそびは、子どもたちに世界がどう見えているのかを、大人に教えてくれるきっかけになります。

保育園や幼稚園の先生方の仕事ぶりには、いつも感心させられます。先生たちは、社会が幼少期の子どもたちを託す人たちであり、子どもたちを社会的な人間に育てるために、社会が頼りにしている人たちです。私たちは、先生たちの声に耳を傾けて、先生たちが支えられ、敬意を払われるようにしなければなりません。



国際芸術祭「岡山芸術交流 2016」で披露されたギリックの屋外作品、通称「リアム・タワー」(写真左)。地下スペースに光を取り込むためにあった大きな採光塔をカラフルに彩ったもの。右の写真は、同芸術祭のギリックの作品「開発」。実際にミニゴルフができる。リアムはこの芸術祭でアーティストティックディレクターを務めた。
撮影(左右とも)：Yasushi Ichikawa

Liam Gillick



色彩豊かに構成されたギリックの作品。「順序付けられたパターンに見えない組み合わせにたどり着くまで、色で遊んでいく」という言葉を彷彿とさせる配色。
©Liam Gillick Courtesy of TARO NASU
撮影(左から順に)：Kei Okano, Sebastiano Pellion di Persano, Kei Okano

Liam Gillick (リアム・ギリック)
1964年イギリス生まれ。彫刻、版画、建築、グラフィックデザイン、映画、音楽など、さまざまなメディアで活躍。現在ニューヨークにて制作活動を行う。重要な国際展に多数参加。著名美術館でのパブリックコレクションも多数ある。



発売から半世紀

子どもにとって、あそびはまなびであり、創造であり、生活そのもの。中でも彼らの好奇心をかき立て思考力や判断力を養ってくれるのが、造形あそびです。

1966年に誕生した商品「Bブロック」は、造形あそびの教材として大ヒットを記録しました。断面がBの字形をしていることから名付けられ、発売以来、ロングセラー商品として多くの子どもたちとともに歩んできました。ジャクエツを代表する商品Bブロックの歩みを、ご紹介します。

Special feature | B block History



1966

Bブロックの誕生

幼稚園・保育園向けに「Bブロック」を発売。幼児向け知育玩具の草分け的存在となった。



1973



部品付きBブロック発売

ジョイントパーツが登場。またこの年、個人用のBブロックの販売も開始。このころは、収納ケースは箱ではなくカゴだった。

1978

ケースの絵柄を変更、爆発的にヒットする

個人用Bブロックのケースの絵柄を変更してイメージチェンジ。爆発的にヒットし、Bブロックが全国に知られるようになった。



バケツ型のケースで持ち運びがラク!

1999



ケースの蓋をベースにして遊べる仕様に

ケースそのものがブロックあそびに欠かせないパーツに。画期的な発明だった。

2007

「Bブロックソフト」発売

安全性を考慮して、割れにくいソフトブロックが登場。



やわらかく割れにくいので安全度アップ

2014

「Bブロック(ソフト)アクティブセット」発売

アースカラー(自然色)4色を追加し、全9色となった。またジョイントパーツを追加。360度回転するジョイントパーツで、さらに立体的な造形が可能になった。



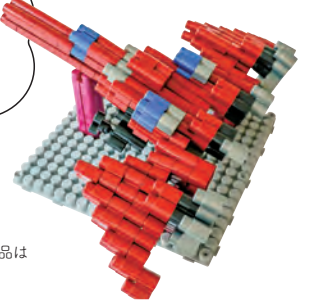
色が5色から9色に増えました

2019

「Bブロック(ソフト)コスモセット」発売*

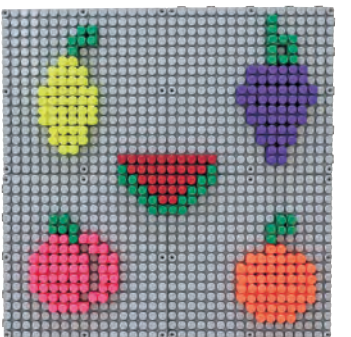
メタリックと蛍光色が入ったセットを発売。これまでにない配色で、あそびの幅を広げた。

Bブロックベースを基地に見立てています!



Bブロックベース発売

ベースを独立した部品として発売。連結させたり、壁にとりつけたりできるので、大きな造形を可能にした。



*2022年現在、セット販売商品はアクティブセットのみです。



PLAY DESIGN LABプロジェクト始動

芸術を学ぶ東京藝術大学の学生たちにBブロックを手にとってもらい、新しい「あそび」のあり方を提案するコラボプロジェクトが始動。未来の芸術家たちが夢中になって造形する過程から、どんな自由な閃きや発想が生まれるのだろうか?

2022

リアム・ギリックとのコラボ企画始動。「リアムの新カラー」発売!!



英国の現代アートを牽引してきた芸術家、リアム・ギリック氏をBブロック企画に招き、コラボレーションが実現。氏によるオリジナルアートの作品から、新色バージョンを展開した。



新カラーと連動して新素材を採用!!

Bブロックを成形する樹脂素材を見直し、新しい素材に変更。金型も改良して、Bブロック表面をよりなめらかに仕上げた。さまざまな造形作品を、より美しく表現できるブロックへ。



「Bブロック 研究所」の実践

ブロックあそびの魅力を最大限に引き出す環境を極めようと、2020年、相模幼稚園で「Bブロック研究所」のプロジェクトが始動。研究所で、子どもたちはどんな姿を見せてくれているのでしょうか？

一つの教室を、丸ごと専用の空間に

Bブロック研究所は、子どもたちが何かに集中して作業できる環境を作りたいと考えていた相模幼稚園の園長先生が、子どもたちに大人気だったBブロックに着目したことで始まったプロジェクトです。

Bブロックの基本ピースは、底面がBの形で突起は2つ。パーツは車輪付きと関節パーツのみと極めてシンプルです。シンプルだからこそ使いやすく、作り出される作品には多様性があります。Bブロック研究所は、部屋に6万ピースものブロックを導入することで、子どもたちの知的好奇心や非認知能力を養うことのできる、贅沢な空間となりました。

さまざまな仕掛けで無限の可能性を探る

仕掛けの一つとして、壁には映像を映し出すプロジェクションマッピングを採用しました。マッピングはブロックで遊ぶと映像が切り替わる仕組みで、子どもたちの非認知能力を養う仕掛けになっています。映像を動かすためのブロック動作の条件設定をあえて緩くすることで、「赤のブロックは反応するのに、なぜ黄色のブロックは反応しないんだろう？」といったように、子どもたちが考えながらチャレンジできるのも、工夫の一つです。

一部屋全部をブロックの部屋とすることで、制作途中の作品もそのまま教室に置いておけるのも素晴らしい点です。今までは作り上げられなかった大きな作品作りができるようになりまし。このようにさまざまな仕掛けを組み込むことによって、ブロックあそびから無限の可能性を引き出すことのできる場となっています。

- ④ 壁のプロジェクションマッピングを見上げる子どもたち。手元のブロックをはめると、スクリーンが切り替わったり、映像が動いたりする。
- ⑤ Bブロック研究所には大量のBブロックのパーツが用意してある。これだけあれば、子どもたちが作った作品をしばらくとっておくことも可能だ。
- ⑥ ブロックあそびには、指先の力を使う必要がある。このため、指先と脳の伝達機能を養うことができる。また指先の器用さを鍛える上でも役立つ。
- ⑦ 作品を下から照らすことのできるライトテーブルが設置されている。光の力を使って、新しい創造性へのヒントを探る試みだ。



⑤ パーツはたくさんあるから、いくらでも使えるよ



⑥



④



①

渡邊園長先生に聞きました

相模幼稚園園長
渡邊信秀先生

A

Bブロックに限らず、普段のあそびや生活においても、子どもたちが自分の考えを言ったり、考えたりする機会が増えました。共同制作のときに意見を出し合うことが増えたためと感じます。研究所の作品が毎日変化していくので、園児だけでなく保護者の方々の関心も高いです。作品をきっかけに保護者との会話が多くなり、園生活にさらに活気が出ました。

Q

Bブロック研究所ができて、子どもたちや園全体に変化はありますか？



⑦



③



②

- ① ブロックで埋めつくされた「Bブロック研究所」。子どもたちが思う存分遊べるよう、6万ピースのBブロックを導入した。部屋には各作業テーブルのほか、壁や床など、教室のどこでも作品を作ることができるようになっている。
- ② 作業テーブルで作品作りに取り組む子どもたち。目の前に山のように積まれているブロックから、好きな色を好きなだけ取り出して使うことができる。
- ③ 壁一面がBブロック作品となっている。ブロック自体のカラフルな色彩を前面に出すことで、知的好奇心がすぐられる空間をプランニング。子どもたちは、部屋のさまざまな場所から制作をスタートさせる。

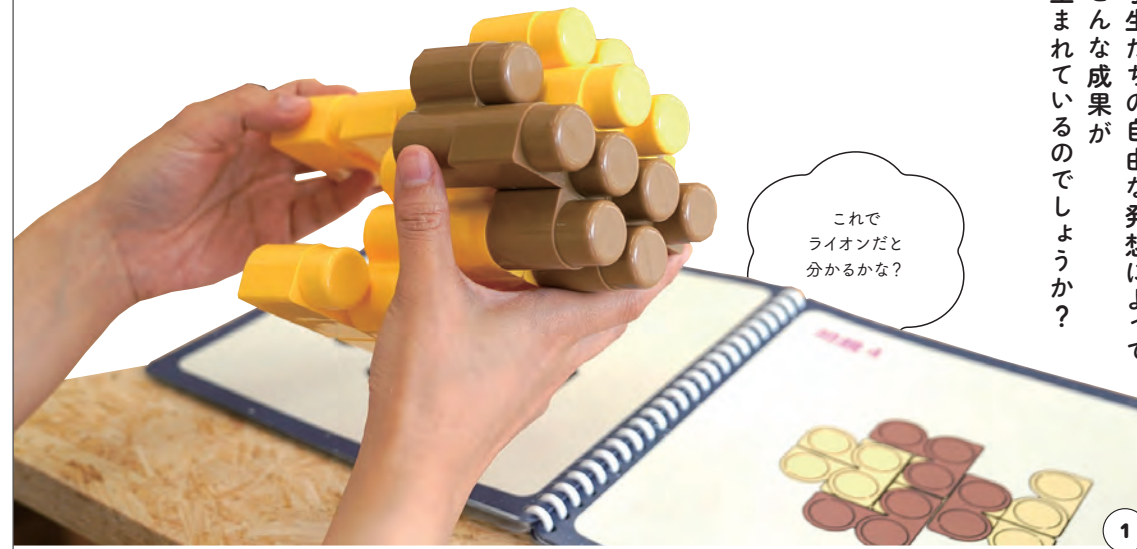
「あそび」の本質を探る！ 藝大生との共同研究プロジェクト

「あそび」の本質を探る！

東京藝術大学美術学部デザイン科と株式会社ジャクエツは、あそびと遊具の可能性を探るデザイン共同研究プロジェクトを行っています。学生たちの自由な発想によって、どんな成果が生まれているのでしょうか？

let's play
Bblock 02

藝大 × ジャクエツ



これでライオンだと分かるかな？

1

- 2019年、藝祭の「Bブロック展」作品例。真上からの視点で描かれた「あるもの」をブロックで作って答えるクイズあそびの提案(以下同)。
- 黒いピアノをBブロックでカラフルにして音を楽しむ提案。
- 水と戯れるブロックあそびの提案。
- Bブロックでできたドレス。Bブロックの柔軟性を生かして曲面を作り上げた。



2



3



4

後ろから回って着ることができます!

2019年、共同プロジェクト始動

東京藝術大学美術学部デザイン科と株式会社ジャクエツは、2019年4月、あそびと教具(遊具)の可能性を探るデザイン共同研究プロジェクトをスタートさせました。第一弾の題材として選ばれたのが「Bブロック」です。

5月、ジャクエツが開催する「子ども環境サミット」の会場にて、学生たちによるBブロックの作品展示が実現。ブースの壁いっぱいにはダイナミックな立体作品が出来上がり、誰も知らなかったBブロックの新しい楽しみ方が披露されました。この試みは、プロジェクトを内外に広く知ってもらうきっかけになりました。

藝祭で大盛況! 「Bブロック展」の試み

2019年の研究テーマは、「Bブロック」の新たな価値創出の探索と具体化をめざす「Bブロックand」。プロジェクトに参加した8名の学生が、Bブロックの未知なる可能性を探ろうと、大学のアトリエで時間をかけて研究・制作に取り組みました。

9月、東京芸術大学の大学祭である藝祭が行われ、学生たちの作品が一部屋に集められました。Bブロック展には3日間で2千人を超える鑑賞者が訪れ、学生たちの斬新なアイデアを堪能。ブロック教具の新しい楽しみ方を体感しました。

さあ、どんな作品が出来上がるかな……?



2019年5月、子ども環境サミット2019にて、Bブロックの作品の制作にはげむ東京藝術大学の学生たち。

完成したBブロックブース。壁には、立体的で壮大な作品がずらりと並んだ。芸術家の卵たちによる自由な発想が生み出したBブロックの作品群は、ひときわ人の目を引いた。



壁面にBブロックベースを用いています

プロジェクト2年目。新たなテーマで出発

2020年の研究テーマは「Bブロック+one」。7名の学生が参加して、Bブロックの活用領域の探索と、パーツなど新たな形のデザイン研究に取り組みました。

Bブロックにどんなパーツがあれば、より広げてより深いあそびができるのか。それを研究するには、まず「あそびとは何か?」を突き詰める必要があります。指導した山崎宣由准教授の助言のもと、学生たちはそれぞれ、「あそび」を「うれしい体験」に置き換えて考えるところから出発。今までの体験や記憶、身の回りの「うれしい・たのしい」を広く振り返って、頭に浮かぶ未知のあそびのかたちをスケッチしながら試作を深めました。その後学生たちは、互いに意見を交わしながら、時間をかけてアイデアをかたちにしました。

2020年の取り組みでは、Bブロックの新しいパーツを提案する7つの作品が完成。これまでになかった新しいあそびへと導きました。プロジェクトは人間にとっての「あそび」の大切さを再確認する機会にもなりました。



band
音楽であそぼう



2020年作品例。音で遊ぶ新パーツを提案。ブロックの凸部の内部に、音の鳴る材料を仕込み、色によって音色を変えられるように工夫した。目が不自由な人にも音色の違いが感じられる。バリアフリーの視点を取り入れ、かつ身体運動をもたらすあそびだ。

たくさんの方が作品を楽しみました!!



作品のてっぺんに乗せて使うパーツです

さきざき

2020年作品例。作者が、ブロックあそびは抽象度が高いと感じていたことから生まれたパーツ。Bブロックの上に「ぼん」と乗せて、頭の中のイメージを表現することを助ける。新パーツは、自然物と人工物をモチーフに、それぞれ5個ずつ作成。

2021年3月、福井のジャクエツ本社にて、展示された学生たちのBブロック作品を観覧する人たち。この時行われた最終発表会では、普段設計開発を担当する社員が、学生のプレゼンテーションに質問や意見を投げかけた。

3歳、4歳児のブロックあそび



5歳児のブロックあそび



3歳、4歳児のブロックあそびは、何かを作るというよりはパーツそのものをもてあそんだり、ごっこあそびに用いたり、ブロックを組み外すことを楽しむ姿が見られます。保育者は、色や形、数量、高さや長さなどを話題にした言葉かけをしながら、子どものあそびに寄り添うとよいでしょう。

保育者に勧めたい子どもへの寄り添い方

3歳未満児は、何かを作るというよりは、友達と話ししたり、友達をあそびを眺めたりしていました。ブロックの素材は軽く、組んでしまえば壊れにくいので、自分の作品を動かして遊んだり、持ち上げて友達や保育者に見せたりすることができず。また、友達や作品をいろいろな角度から眺めることもできません。その過程で新たな発想が浮かんだり、真似したいことが出てきたりすれば、自分の作品に改良を加えることも簡単にできます。ブロック教具を持つこれらの特長が、子どもが集中して遊ぶことにつながっていると考えられるのです。

栗山誠 (2008) 造形遊びに見られる幼児の探索活動の実例. 大阪総合保育大学紀要, 3, 99-111.
前祐希・西館有沙 (2020) ブロックを用いた幼児の一人遊びとその発達的変化—幼稚園や保育所等にある玩具に着目して—. 富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要教育実践研究, 15, 57-68



において、子どもの手が止まったタイミングで「何ができたかな」と声をかけて見立てのきっかけを作ったり、見立てと一緒に楽しんだりするなどの援助が必要です。
4歳以降の子どもに対しては、どうしたらイメージに近づけられるかを一緒に試行錯誤することや、子どもに自分の作品について話してもらったことやお勧めします。これによって、子どものブロックあそびがより活発になります。加えて、友達の話聞く機会をもつことで、自分の作品づくりのヒントを得たり、友達とのやりとりが生まれたりするかもしれません。

Column 子どもとあそび

ブロックあそびを観察して見えてきたこと

ブロックあそびで、どんな力が育まれるのでしょうか? 保育現場で観察を続けてこられた西館有沙先生に、寄り添い方のヒントをうかがいました。



指導: 富山大学教育学部 准教授 西館有沙 (にしだてありさ) 先生

保育学や児童福祉学が専門。定期的に保育所や認定こども園などを巡回し、保育者への指導助言を行っている。最近の研究テーマの一つに「遊具や玩具を用いた幼児の遊び」がある。



3歳未満児のブロックあそび

ブロックあそびの様子を観察していると、3歳以上児のクラスでは、何となくパーツを組む中で「家みたい。ロケットにも見える」と見立てを始めることがあります。偶発的にできたブロックの造形は、見立てがむずかしいようにも感じられますが、3歳児でも実にさまざまな見立てを行います。複数のパーツで表される形のあいまい

あそびを通して育まれる想像力と表現力

ブロック教具はメーカーによって大きさも形もさまざまですが、共通するのは、複数の色や形のパーツがあることです。幼児期の子どものは、色、形、大きさ、数量、空間といった概念を、あそびなどを通して培いますが、ブロックはこれらの概念を形成するのに有効な教具の一つです。簡単に組んだり外したりできることも、ブロックの大きな特長です。組んだり外したりする作業の繰り返しは、手指の操作性の育ちにつながります。複数のパーツを組んで新たな形(子どもにとっての作品や玩具となるもの)を作り出すことができるので、創造性の育ちも期待できます。

この研究では、ブロックで遊び始めてから終えるまでの時間も計測しました。3歳クラスの平均は10分38秒、5歳クラスは19分12秒であり、3、4歳児でも長い時間をブロックあそびにかけていることがわかります。あそびを中断した時間も計測したところ、3歳クラスでは平均4分5秒、5歳クラスでは6分42秒でした。中断している間の子どもは、作ったも

さが、子どもの想像力を刺激するのかもしれませんが。子どもの年齢が上がるにつれて、形を見立てるだけでなく、作りたいものを作ろうとするようになっていきます。2008年の栗山論文では、幼児後半の子どものには自分のイメージしたことを具体化・視覚化するために試したり探ったりするような知的探索が見られるとしています。2020年の私と学生との共同研究でも、5歳クラスの子どものブロックあそびでは、3、4歳児より明らかに多くの組み立てや分解を行うことがわかりました。これは、自分のイメージを具現化しようと試行錯誤する姿の現れであると考えてよいでしょう。繰り返しのあそびの中でブロックを組む技術も高まるので、このこともイメージを具現化しようとする子どもの意欲につながっているようです。

透明のアクリルキューブに
封入された植物の美しい造形。

キューブは、
知性と感性を刺激する立体図鑑として
こどもたちの好奇心と
あそびを無限に広がります。

誰と、どこで、
何をして遊ぶのか。
あそび方は
自由です。

手のひらサイズの立体 図鑑「キューブブック」



Cube Book

キューブブック

サイズ：1個/4×4×高さ4cm
重さ：1個/約75g
材質：アクリル樹脂

- » HDC0400 (16個入り) ¥60,500税込 (¥55,000税別)
- » HDC0401 (36個入り) ¥121,000税込 (¥110,000税別)

36個入り



16個入り



よくみる



たくさんあそぶ



だいじにする

JAKUETS